

JCNEグッドガバナンス認証

「アドバンス評価基準」に基づくNPOマネジメントの学びの教材

Ver. 01 (2021年10月)

(一財) 非営利組織評価センター
業務執行理事 山田泰久

グッドガバナンス認証制度で使用している「アドバンス評価基準」の内容にあわせて、NPOマネジメントに関する学びを深めていくための教材として、書籍や参考資料をピックアップしました。

アドバンス評価基準では、12の項目でテーマが設定されています。そのテーマの学びを深めるために、それぞれ3冊ずつ選書しています。1冊はそのテーマについて深く考えるためのキーブックを設定しています。他の2冊は、コンセプトを学ぶためのコンセプトブック、具体的に実務を行うためのノウハウブックを選んでいきます。今回選んだものは、10年以上に渡りNPO支援に関わっている山田が実際に読んだ本をご紹介します。

その他に、YouTube動画やオンラインセミナーなど、地域を問わず学びを深めることができるコンテンツも紹介しています。

本資料の最後に「アドバンス評価基準」によるグッドガバナンス認証制度を紹介しています。自団体の組織運営の状況を確認し、基盤強化を行うために、グッドガバナンス認証の活用もぜひご検討ください。

グッドガバナンス認証「アドバンス評価基準」

I. 学びと創造

項目1 受益者本位の視点によるニーズの把握と改善

- (1) 解決しようとする社会的課題と組織課題に関して、第三者や受益者、市民から意見を聴くための仕組みや機会を設け、参考にしている。
- (2) 外部からの要望や提案、苦情について、日常業務や活動の中で適切に対応するとともに、それらを参考にしながら事業や組織運営の改善に取り組んでいる。

【書籍】

▼キーブック

市民の日本語—NPOの可能性とコミュニケーション 2002/9/1

加藤 哲夫 (著)

<https://www.amazon.co.jp/dp/4894761661/>

▼ノウハウブック

NPOのためのマーケティング講座 2014/10/1

長浜 洋二 (著)

<https://www.amazon.co.jp/dp/4761525762/>

▼ノウハウブック

実践 自分で調べる技術 2020/10/21

宮内 泰介 (著), 上田 昌文 (著)

<https://www.amazon.co.jp/dp/400431853X>

この項目のテーマである「受益者本位の視点によるニーズの把握と改善」は、NPOの事業・活動を行っていく上ではとても大事なポイントです。受益者ニーズという視点をあらためて考えるための「キーブック」は地域のNPOセンターの先駆けである、せんだい・みやぎNPOセンターを立ち上げた故・加藤哲夫さんの書籍をピックアップしました。副題に「NPOの可能性とコミュニケーション」とある通り、NPOの役割や意義を問い直す本です。

ノウハウブックとして2冊紹介しています。1冊は、マーケティング視点でNPO活動を考えるための実務書です。NPOのマーケティングといえば、この方をイメージするNPO関係者も多いでしょう。その長浜 洋二さんがNPO向けにマーケティングのポイントを体系的にまとめた本です。活動やサービスの利用者、NPOを支援する寄付者、その2つの視点で顧客のニーズを探ることの大切さを紹介しています。

もう1冊は、「調べる」ことをテーマにした実践的な入門書です。文献調査からアンケート調査まで初級者向けの内容になっています。「調べる」をテーマに様々な手法が紹介されていますので、手元において常に参考にしたい一冊です。

項目2 課題の共有と改善・創意工夫、および人材の育成

- (3) 業務執行の意思決定について、内部の関係者で事前に情報共有、議論がなされた上で決裁手続きを行い、決定内容を関係する役職員に情報共有している。
- (4) 主たる事業について、達成に必要な情報や課題が関係者で共有され、事業達成に向けた課題の改善や創意工夫に取り組んでいる。
- (5) 情報共有や振り返り、改善の一連のプロセスに基づくOJT等で人材育成を行うとともに、外部セミナー等により研修の機会を職員に提供している。

【書籍】

▼キーブック

市民のマネジメント—市民の仕事術 2011/6/30

加藤 哲夫 (著)

<https://www.amazon.co.jp/dp/4904184386/>

▼コンセプトブック

社会に挑む5つの原則、組織を育てる12のチカラ（「ソシオ・マネジメント」創刊号）
IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]

<https://blog.canpan.info/npomanagement/archive/217>

▼ノウハウブック

社会を変えるNPO評価—NPOの次のステップづくり 2011/1/1
粉川 一郎（著），コミュニティシンクタンク「評価みえ」

<https://www.amazon.co.jp/dp/4779302625/>

【セミナー】

NPOサポートセンター／Good Business Studio

<https://npo-sc.org/training/good-business-studio/>

この項目は、事業や業務のプロセスを確認するためのものです。キーブックは、項目1と同じく、せんだん・みやぎNPOセンターを創設した加藤哲夫さんの著書「市民のマネジメント—市民の仕事術」です。この本は、IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所]が発行していた「NPOマネジメント」で加藤さんが連載していたコラムをもとにしたものです。NPO法成立前から市民活動に関わり、数多くのNPOをサポートしてきた加藤さんならではの視点で、非営利組織の事業や業務遂行の秘訣がまとめられています。

コンセプトブックは視野を広げる本をピックアップしました。IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所]代表の川北秀人さんが執筆した、社会課題解決を目指す非営利組織の事業の指南書です。事業開発から組織運営まで、NPOにとって大事なポイントをまとめた内容です。読んで目から鱗の内容です。

ノウハウブックは事業評価に関する参考書です。10年以上前にNPOの事業評価に先駆的に取り組んでいた「評価みえ」がそのノウハウを一冊の本にまとめたものです。自団体で振り返りをしながら行う評価は団体の底力をパワーアップするものです。事業の計画から実施、振り返り、改善まで学べる一冊です。

セミナーは、定期的にNPO向けの講座を開催しているNPOサポートセンターのものです。オンラインでも実施していますので、全国各地から参加可能です。事業開発に関するセミナーもありますので、この項目に最適なものとなっています。

項目3 社会への情報発信と啓発活動

- (6) 社会的課題や活動に対する理解と共感が得られるよう、広く社会に向けて、働きかけや情報発信をしている。
- (7) 社会課題の解決のために、必要に応じ、国や企業、市民等に対し提案や情報提供を行っている。

【書籍】

▼キーブック

市民のネットワークキング—市民の仕事術 2011/6/30
加藤 哲夫（著）

<https://www.amazon.co.jp/dp/4894761661/>

▼ノウハウブック

NPOのためのIT活用講座 効果が上がる情報発信術 2014/9/1

久米信行 (著), 山田泰久 (著)

<https://www.amazon.co.jp/dp/476151342X/>

▼ノウハウブック

言葉ダイエット メール、企画書、就職活動が変わる最強の文章術 2019/12/27

橋口幸生 (著)

<https://www.amazon.co.jp/dp/4883354806/>

【セミナー】

NPOサポートセンター／Good Business Studio

<https://npo-sc.org/training/good-business-studio/>

項目3のテーマは情報発信です。単に団体や活動のPRを行うだけではなく、社会に向けての発信であり、働きかけということが大事なポイントになります。キーブックは、項目1, 2に続いて、同じく加藤哲夫さんの書籍です。「市民のネットワーキング」とある通り、情報発信にはつながりを作り、ネットワークを作っていくことも大事な要素です。そういった視点を学ぶのに最適な一冊です。

ノウハウブックには、IT活用×情報発信をテーマにした本です。2014年に発行されたものです。SNSの紹介などは少し古い内容になっていますが、情報発信の心構えや考え方は普遍的なものがありますので、NPOにとって参考になります。ちなみに、この本は、私がNPO法人CANPANセンター時代に同じ理事仲間である情報発信の達人の久米信行さんと一緒に出版したものです。

もう1冊は文章術の本です。社会的キャンペーンなども手掛けたコピーライターが書いたものです。NPOの情報発信となると情報量が多すぎになってしまうケースがあります。その中で言葉を整理して、本当に伝えたいことを伝えるための文章術を教えてくれる内容です。

セミナーは、項目2に続いて、NPOサポートセンターのセミナーをご紹介します。SNSやメルマガを活用した情報発信、キャッチコピー制作などの講座があります。

II. 市民参加と協働

項目4 市民参加

- (8) 寄付や会員制度、ボランティア、イベント参加等を通じて、多くの市民が活動に参加できる機会を提供している。

【書籍】

▼キーブック

ボランティア—もうひとつの情報社会 1992/7/20

金子 郁容 (著)

<https://www.amazon.co.jp/dp/4004302358/>

▼コンセプトブック

「参加の力」が創る共生社会:市民の共感・主体性をどう醸成するか 2018/5/23
早瀬 昇 (著)

<https://www.amazon.co.jp/dp/4623083381/>

▼ノウハウブック

コミュニティマネジメントの教科書～強くあたたかい組織・コミュニティのつくり方～
CRファクトリー (編)

<https://crfactory.com/kyoukasyo/>

項目4は「市民参加」がテーマです。参加の方法は、寄付、会員、ボランティア、イベント参加など多様な方法があります。市民がNPOに参加して、NPOを通じて社会につながる仕組みです。キーブックは、30年前の本になりますがあえてピックアップしました。情報社会が始まった当時、今までとは違う社会参加のあり方が生まれつつありました。その思想は、現在の市民参加の状況を想定させるものでした。古典とし学びの深い本です。

2冊目はコンセプトブックとして、長年ボランティアマネジメントに携わってきた大阪ボランティア協会の早瀬昇さんの著書になります。日本の市民社会、市民参加の状況を概観しつつ、市民参加の意義や役割などを学ぶことができます。

最後は、ノウハウブックとして、コミュニティ支援に取り組んでいるNPO法人CRファクトリーが作成した書籍です。文字通り、コミュニティマネジメントの教科書です。参加してくれたボランティアやスタッフとのコミュニティづくりについて具体的なノウハウがたくさん紹介されています。

項目5 連携・協働

- (9) 地域の様々な主体、または、同じ社会的課題に取り組んでいる団体と連携・協働を行っている。
- (10) 必要に応じ、企業や助成財団から支援を得るとともに相互の関係を築いている。
- (11) 必要に応じ、行政と積極的に情報交換し、連携・協働を行っている。

【書籍】

▼キーブック

市民社会論：理論と実証の最前線 2017/2/10

坂本 治也 (著, 編集), 田村 哲樹 (著), 山本 英弘 (著), 吉田 忠彦 (著), & 11 その他

<https://www.amazon.co.jp/dp/4589038137/>

▼ノウハウブック

誰でもできるロビイング入門 社会を変える技術 2015/12/16

明智 カイト (著)

<https://www.amazon.co.jp/dp/4334038948>

▼コンセプトブック

社会はこうやって変える!: コミュニティ・オーガナイジング 2020/9/25

マシュー・ボルトン（著），藤井 敦史（翻訳），大川 恵子（翻訳），
<https://www.amazon.co.jp/dp/4589041049>

【セミナー】

NPO法人市民アドボカシー連盟

<https://lobbyingadvocacy.mystrikingly.com/>

項目5は地域や多様なセクターの組織との「連携・協働」がテーマです。キーブックは、非営利セクター全体を概観する教科書のような本です。長年、NPOや市民活動を研究してきた研究者がテーマごとに執筆を担当した書籍です。市民社会論ということで、多様なテーマで書かれていますが、連携や協働についてもその歴史から現状、意義、役割を詳しく学ぶことができます。

2冊目のノウハウブックは、市民活動のためのロビイングに関する入門書です。行政との連携・協働を進めていくためにはロビイングも大事な手法です。体系的な話から具体的な実践例まで網羅的にまとめられています。とてもわかりやすい本です。

3冊目は、海外で実践されていて日本でも東日本大震災以降に積極的に導入されているコミュニティ・オーガナイズングに関する解説本です。コミュニティ・オーガナイズングは市民参加型で連携協働しながら社会を変えていく手法です。イギリスでの市民参加型の社会変革の事例をもとにした内容ですが、日本でも十分に活用できるノウハウとして解説されています。連携・協働の意義を学ぶのにお勧めの本です。

セミナーは、市民活動向けのアドボカシー活動のノウハウを提供しているNPO市民アドボカシー連盟が主催しているものです。現在は月に1回程度、セミナーを開催しています。オンラインで参加できます。NPO向けのアドボカシー活動の講座は他であまり開催されていないので、貴重な機会です。

項目6 寄付

12. 個人、および法人からの寄付金の募集について、適切な情報を提供するとともに用途を明示している。
13. 寄付者に対して、活動内容や成果、収支状況を含んだ寄付金に関する活動報告を、適切な時期と方法で行い、ウェブでも概要を公開している。

【書籍】

▼キーブック

世界は贈与でできている——資本主義の「すきま」を埋める倫理学 2020/3/13

近内悠太（著）

<https://www.amazon.co.jp/dp/4910063056/>

▼コンセプトブック

寄付白書2017 2017/12/8

寄付白書発行研究会（著），日本ファンドレイジング協会（編集）

<https://www.amazon.co.jp/dp/4907431112/>

▼コンセプトブック

寄付をしてみよう、と思ったら読む本 2018/11/21

渋澤 健 (著), 鶴尾 雅隆 (著)

<https://www.amazon.co.jp/dp/4532357985>

【セミナー】

認定NPO法人日本ファンドレイジング協会

<https://jfra.jp/>

【動画】

みんなのファンドレイジング (ファンドレイジング・ラボ)

<https://www.youtube.com/channel/UCyS9dun52pKKMRQzbgCrRYg>

項目6は市民参加や連携の機会を提供することにもなる「寄付」がテーマです。キーブックは、寄付を超えてさらに視野を広げる「贈与」に関する本です。あらためて贈与というものを考えるきっかけになります。贈与の成り立ちから、現代社会における贈与とは何かということが書かれています。贈与からあらためて寄付の意義を考える一冊です。そして、贈与と経済を体現しているNPOやボランティアを考えるヒントにもなります。

2冊目はコンセプトブックとして寄付白書を紹介します。寄付の現状を把握するためにうってつけの本です。これで寄付の傾向を押さえておきましょう。ちなみに、現在「寄付白書2021」の出版が予定されています。

3冊目は、寄付者の視点で寄付を学ぶための一冊です。寄付募集の際に寄付の意義を伝えるヒントが満載です。寄付そのものの考え方や役割、意義などを体系的に学ぶことが出来る参考書としてお薦めします。

セミナーは、日本ファンドレイジング協会が実施するものです。特に寄付について体系的に学べる認定ファンドレイザー研修をお薦めします。それ以外にもファンドレイジングのノウハウが詰まったセミナーが実施されています。

最後に、動画でファンドレイジングを学ぶことができるYouTube「みんなのファンドレイジング (ファンドレイジング・ラボ)」です。2021年9月時点で、寄付やファンドレイジングに関する動画が40本以上アップされています。1本10分程度ですので、気軽に学ぶことができますので、要チェックの動画です。

Ⅲ. 社会的責任と信頼

項目7 人権尊重と環境への配慮

- (14) 組織としての行動規範を明確にし、役職員は事業や組織運営において社会規範に即した倫理的な行動をしている。
- (15) 組織は環境に類する法令などの遵守とともに環境への負荷と環境への取組状況を把握し、事業や組織運営の中で反映させている。

【書籍】

▼キーブック

現代語訳 論語と算盤 2010/2/8

渋沢 栄一 (著), 守屋 淳 (翻訳)

<https://www.amazon.co.jp/dp/4480065350/>

▼コンセプトブック

やるべきことがすぐわかる! SDGs実践入門 ~中小企業経営者&担当者が知っておくべき85の原則 2020/12/19

泉 貴嗣 (著)

<https://www.amazon.co.jp/dp/4297117525/>

▼ノウハウブック

サステナビリティ・ビジネス・マガジン「オルタナ」

<https://www.alterna.co.jp/>

【セミナー】

CSR検定／オルタナ

<https://www.csr-today.biz/exam>

項目7は組織の社会的責任として「人権尊重と環境への配慮」をテーマにしています。企業でいえば、CSRの中でも特に配慮しなければいけない内容です。このテーマのキーブックは、渋沢栄一です。NPOであっても、関連する分野以外の社会問題や人権、環境に配慮して組織運営を行い、社会的責任を果たす必要があります。あらためて組織としての社会的責任を考える本として、日本のCSRの元祖的な渋沢栄一の「論語と算盤」をお薦めします。

2冊目は、SDGsをいかに実践をしていくのかを教えてくれる入門書です。SDGsの解説書は数多く出版されていますが、実践のための良書はまだ少ないです。その中で、本書はSDGsに関わる課題を組織レベルに落とし込んで取り組むためのSDGsの実践のヒントが満載です。

3冊目は書籍ではなく、雑誌／Webメディアです。雑誌は年4回の発行で、様々な視点でCSR、SDGs、サステナビリティに関する事例が紹介されています。Webメディアでも定期的に更新されています。みなさんの取り組みのヒントになります。

最後は、雑誌／Webメディアのオルタナが実施しているCSR検定です。この検定では、検定のテキストや事前講習会などが用意されています。体系的に社会的責任について学ぶことができます。

項目8 コンプライアンス

- (16) 理事と利益相反取引等を行おうとする時は、事前に議論を行い、適切に事務手続きを行う。
- (17) 職員の労働条件・職場環境が適正に整備され、法令および所定の規定において適切に賃金を支給している。

【参考サイト】

役員等／内閣府NPOホームページ

<https://www.npo-homepage.go.jp/qa/ninshouseido/ninshou-yakuin>

NPO法人とは（理事・監事・理事会②）／NPO会計道

<https://blog.canpan.info/waki/archive/1243>

後で後悔しない「NPO法人」と「役員」との取引の進め方／ChangeRecipe

<http://www.npoweb.jp/changerecipe/recipes/103.html>

「働き方改革」の実現に向けて／厚生労働省

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000148322.html>

項目8は「コンプライアンス」がテーマです。この項目は推奨書籍ではなく、参考サイトのご紹介です。最初に、あらためて理事・監事の役員について確認するためのサイトです。役員の役割を確認した上で役員と法人の取引について利益相反取引として適切な手続きを行っているかを確認しましょう。項目10「リスク管理」で紹介している『NPOの法律相談——知っておきたい基礎知識60』（BLP-Network・著）も役員の利益相反取引のことが紹介されています。

3つ目の記事は、利益相反取引の手続きについて、具体的に解説されています。利益相反取引について今すぐ調べたい方にお勧めです。

最後の厚生労働省のサイトは「働き方改革」です。労務関係については、毎年何かしらの法令改正などがあります。しっかり最新の情報をキャッチして対応していく必要があります。具体的なノウハウや役立つツールも掲載されていますので、要チェックです。

IV. 自立と自律

項目9 事業運営

- (18) 役員（理事・監事）は、特定の団体、血縁関係に偏らない人々から構成されており、組織の中立性、公平性を維持している。
- (19) 組織ミッション・ビジョンに基づく、複数年度の中期計画あるいは、事業目標をもつとともに振り返りや評価を行っている。
- (20) 社会状況に柔軟に対応するため事業計画で記載されていない事業については、組織の中で適切に実施されている。

【書籍】

▼キーブック

世界を変える偉大なNPOの条件——圧倒的な影響力を発揮している組織が実践する6つの原則 2012/7/13

レスリー・R・クラッチフィールド（著）他

<https://www.amazon.co.jp/dp/4478007284/>

▼コンセプトブック

社会変革のためのシステム思考実践ガイド——共に解決策を見出し、コレクティブ・インパクトを創造する 2018/11/16

デイヴィッド ピーター ストロー（著）他

<https://www.amazon.co.jp/dp/4862762425/>

▼ノウハウブック

ソーシャル・スタートアップ——組織を成長させ、インパクトを最大化する5つの戦略
2020/10/29

キャサリン・ケリー・ヤヌス（著）、高崎拓哉（翻訳）

<https://www.amazon.co.jp/dp/4862762808/>

【セミナー】

NPOサポートセンター／Good Business Studio

<https://npo-sc.org/training/good-business-studio/>

項目9はガバナンスを意識した「事業運営」がテーマです。キーブックは、海外事例になってしまっていますが、偉大な成果を出してきたNPOを紹介した本です。組織運営や事業面でのような取り組みを実践してきたのかを解説しています。そこにNPOのあるべき姿、特に事業面での目指す姿のヒントがあります。その中で理事会や理事がどのような立ち位置で関わってきたのかを意識して読んでみることをお勧めします。

次は、コンセプトブックとしてコレクティブ・インパクトの解説書です。コレクティブ・インパクトはNPOが単独で課題解決をするのではなく、セクターの枠を超えて地域で協働し課題解決を目指す手法です。ここ数年で国内においても注目されていますので、押さえておきたいコンセプトです。

3冊目は、ノウハウブックとして、アメリカの社会起業家の事例集です。様々な分野、成長ステージの団体の実践が紹介されています。海外事例ですので、そのまま日本ですぐに応用できるというわけではありませんが、自団体の状況や強み・弱みを整理し、これから何を取り組むべきかを考えるガイドブックとして活用できる本です。

最後は、度々のご紹介になりますが、NPOサポートセンターのセミナーシリーズです。事業関係では、ミッション・ビジョンの策定や、中期計画の立案をテーマにしたものが開催されています。

項目10 リスクの管理

(21) 事業と組織運営における様々なリスクを把握し、対応する仕組みや体制を整備している。

【書籍】

▼キーブック

NPOの法律相談——知っておきたい基礎知識60 2016/9/21

BLP-Network（著）

<https://www.amazon.co.jp/dp/B01M143YBD/>

▼ノウハウブック

個人情報保護法の知識〈第4版〉 2017/5/16

岡村 久道（著）

<https://www.amazon.co.jp/dp/4532113768/>

▼コンセプトブック

2020年度版職業上の不正と濫用に関する国民への報告書（日本語版）

ACFE（Association of Certified Fraud Examiners；公認不正検査士協会）

https://www.acfe.jp/wp-content/uploads/2021/01/RTTN2020_J_R2.pdf

項目10は「リスクの管理」がテーマです。キープックは、ノウハウブックにもなるものです。弁護士によるプロボノ集団であるBLP-Networkの本です。NPOの組織運営・事業運営の中で法律に関係することや外部から訴えが起こりそうなことが網羅的にまとめられています。法律もNPO法だけでなく、労働基準法など様々な法律に関する事例を取り上げています。NPOで想定されるリスクをまとめた本とも言えます。

2冊目は、個人情報保護法の解説書です。2017年の改正によって、どんな小さなNPOでも対応しなければいけない法律となりました。法律の解説と対応方法に関する内容ですので、NPOの事務所に備え置きたい一冊です。

3冊目は、Webで無料で入手できる報告書です。海外のネットワーク組織である公認不正検査士協会が発行している、ビジネスセクターやソーシャルセクターなど様々な組織における不正の状況について調査したものの報告書です。こちらもどのようなリスクがあるのかを考える参考書籍として活用できます。

項目11 ガバナンス

- (22) 理事会は、組織の方向付け、自立の確保を含め、健全な意思決定を行っている。
- (23) 理事は、執行責任や善管注意義務（善良な管理者の注意義務）を認識して、団体の事業や会計の状況を把握している。
- (24) 監事は、監査責任や善管注意義務を果たすために、理事会に出席し理事の職務執行や財産の状況を監視している。
- (25) 組織運営に必要な規程や規則等を理事会（または社員総会）の承認を得て策定している。

【書籍】

▼ノウハウブック

社会に挑む組織のガバナンス ― 理事・評議員・監事の役割を最大限発揮するために
（「ソシオ・マネジメント」第9号）

IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]

<https://blog.canpan.info/npomanagement/archive/243>

▼コンセプトブック

非営利組織のガバナンス——3つのモードを使いこなす理事会 2020/1/16

リチャード・P・チェイト（著），ウィリアム・P・ライアン（著）

<https://www.amazon.co.jp/dp/486276262X/>

【セミナー】

岡山NPOセンター

<http://www.npokayama.org/seminar/>

【動画】

JCNE・NPOセミナー「ガバナンスの考え方」

<https://www.youtube.com/channel/UCCKkxBnLuJsDwTaQHR0Lgzg/featured>

項目11は「ガバナンス」をテーマにしています。最初は、ノウハウブックとして、理事・評議員・監事の役割をあらためて学ぶことができる一冊です。法令や定款に基づく組織運営から具体的にやるべきことなど、基礎から実践的な内容まで幅広く押さえられています。NPO法人、一般法人、公益法人など、法人格別の違いも解説されています。お飾りの役員ではなく、組織を良くし、社会を変えていくことを志向する役員のための実践の書です。

次は、コンセプトブックとして、理事会をテーマにした書籍です。アメリカの非営利組織の理事会のあり方をまとめたものです。日本の法律に基づく非営利組織の機関とは少し違っているところもありますが、理事会の役割、理事のあり方を整理して考えるのにはとても参考になる一冊です。

セミナーは、前にも紹介した岡山NPOセンターのセミナーです。理事や監事をテーマにしたセミナーを毎年開催しています。これらをテーマにしたセミナーは他の団体でもあまり開催されていないので、貴重な機会です。

最後は、当センターのセミナーの動画をご紹介します。こちらは2020年度に毎月1回開催しているガバナンスの基本を学ぶための講座の動画です。各回30分で、ガバナンスの基本のところから理解することができる内容です。

項目12 財務と会計

- (26) 適正な会計処理を行うために、NPO法人会計基準に沿って、「財務諸表の注記」を含む財務諸表等を適切に作成している。
- (27) 組織経営の安定的継続を図ることを目的として、健全な資金調達や財務管理を行っている。

【書籍】

▼コンセプトブック

非営利団体の資金調達ハンドブック 2017/3/23

徳永 洋子 (著)

<https://www.amazon.co.jp/dp/4788715104/>

▼ノウハウブック

NPO法人会計基準[完全収録版 第3版] 2018/2/28

NPO法人会計基準協議会 (編集)

<https://www.amazon.co.jp/dp/4909269029>

▼ノウハウブック

NPO法人会計力検定テキスト

NPO会計支援センター

<https://www.npokaikei.com/book.html>

【セミナー】

岡山NPOセンター

<http://www.npokayama.org/seminar/>

NPO会計支援センター

<https://www.npokaikei.com/index.html>

【動画】

NPO会計道/税理士 脇坂誠也

<https://www.youtube.com/channel/UCpUlfipj3uh63yTirqimGAg>

NPO会計支援センター

<https://www.youtube.com/channel/UC1rjRGrEM8UY-PSVIsvKXtQ>

項目12は「財務と会計」をテーマにしています。コンセプトブックは、非営利組織の資金調達全般を扱った本です。資金調達の方法を網羅的に扱い、NPOの経験が浅い方でもわかりやすく、かつ実践的なノウハウ満載な本です。NPOとして手元に置いておきたい一冊です。

2冊目は、ノウハウブックとして、NPO法人会計基準の解説書です。こちらは経理担当の実務書です。担当者としては必携の本です。基準の改訂にあわせて発行されていますので、最新の内容を確認することができます。

3冊目もノウハウブックです。NPO法人会計力検定のテキストですので、会計を入門から実務まで体系的に学ぶのに役立ちます。テキストで学んで検定を受けてみるのもよい学びの機会です。

セミナーでは、NPO法人会計に関する講座を度々実施している岡山NPOセンターとNPO会計支援センターのセミナーです。

動画は、NPO会計といえばブログ「NPO会計道」でおなじみの税理士の脇坂先生のYouTubeです。非営利組織の会計について、NPO法人だけでなく一般法人の会計や税務や寄付金の扱いなど多彩なテーマの動画がアップされています。また、会計以外のガバナンスに関する動画も数多くあります。セミナーでもご紹介したNPO会計支援センターの動画もお薦めです。

その他の参考図書

これまでに紹介した書籍の他に、まだまだ参考になる本がありますので、リストでご紹介します。

【書籍】

初歩的な疑問から答える NPOの教科書 2015/3/5

乙武 洋匡 (著), 佐藤 大吾 (著)

<https://www.amazon.co.jp/dp/4822277631>

日本NPOセンターの出版物

知っておきたいNPOのこと 1 【基本編】

知っておきたいNPOのこと 2 【資金編・新版】

知っておきたいNPOのこと 3 【協働編】

知っておきたいNPOのこと 4 【参加編】

知っておきたいNPOのこと 5【事業評価編】

これならできる！事業評価ワークブック ～NPO活動を豊かにするための評価の旅～
<https://www.jnpoc.ne.jp/?cat=10>

IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]

支援・評価・助成の、基礎と戦略（「ソシオ・マネジメント」第10号）
<https://blog.canpan.info/npomanagement/archive/244>

遺贈寄付ハンドブック[改訂版]遺贈寄付を受ける団体や相談を受ける人が知っておきたい大事なこと 2018/10/1

鶴尾雅隆（著）、齋藤弘道（著）、芝池俊輝（著）、樽本哲（著）、山北洋二（著）
<https://www.amazon.co.jp/dp/4907431120>

NPO・市民活動のための助成金応募ガイド 2021

助成財団センター

[https://www.tokyo-kansho.co.jp/asp/book/book_detail/?id=05135e0220eec213be359b
eee60b7511](https://www.tokyo-kansho.co.jp/asp/book/book_detail/?id=05135e0220eec213be359beee60b7511)

参考：グッドガバナンス認証

今回紹介した評価基準は、グッドガバナンス認証のためのアドバンス評価のものであります。

グッドガバナンス認証とは、JCNEの独自の評価基準に基づき、専門の評価員が団体を訪問し、ヒアリングや書類確認によって組織運営の状況の評価をしています。その評価結果をもとに、非営利組織の中でも組織運営やガバナンスが一定水準以上のレベルの団体を認証しています。グッドガバナンス認証団体は外からは見えにくい組織内部の状況を第三者機関に開示して、信頼性・透明性の向上に努めている団体です。また、課題がある場合も見直し、改善をしていく姿勢や意欲のある団体でもあります。寄付をしたい、ボランティアとして参加したいという市民や企業の方が、期待をかけて支援ができる団体として紹介しているのが「グッドガバナンス認証団体」です。

【グッドガバナンス認証の概要】

対 象：NPO法人（認定を含む）、一般社団・財団法人（非営利型）、
公益社団・財団法人、社会福祉法人

評価手法：書面評価と訪問評価

評価基準：27項目（適用除外可能なもの6項目）

分野/事業内容・組織規模を問わない評価基準

事前の書面評価と3時間の訪問調査の構成

事業のプロセスやガバナンスの状況をヒアリングし、評価

更新期間：3年間

費 用：普及期間のため、評価料・認証料無料

【評価実施方法】

- ①評価団体自身で、自己評価ガイドブックをもとに自己評価を行う。
- ②各基準のエビデンスとなる関係書類を提出する。
- ③JCNEで自己評価及び関係書類の内容に基づく書面評価を行う。
- ④グッドガバナンス評価員1名と評価員補佐（JCNE事務局）1名で団体事務所を訪問して、ヒアリングに基づき評価を実施する（新型コロナの状況でオンライン評価）。

【グッドガバナンス評価員とは？】

グッドガバナンス業界人は、JCNEの評価員研修を受講し、JCNEのグッドガバナンス認証制度を運用するために評価基準を理解し、公正な評価業務を行う者として、評価員として登録された者です。

主にNPOセンター関係者、助成財団等を含む中間支援組織関係者、NPOの役員や事務局長経験者、NPO関連の士業関係者やコンサルタントなどが研修を受けて評価員となっています。

【グッドガバナンス認証の付与】

すべての基準を満たした団体を認証候補団体として、外部有識者による「グッドガバナンス認証審査委員会」にて認証の付与について審査を行います。審査を通過した団体に対して3年間の有効期間で認証を付与します。

なお、審査に通過しなかった団体やアドバンス評価基準を全て満たすことが出来なかった団体は1年間の猶予期間中に改善を行い、グッドガバナンス認証の審査に進むことが出来ます。

【グッドガバナンス認証のお申込み】

https://jcne.or.jp/evaluation/good_governance/

以上

JCNEグッドガバナンス認証 「アドバンス評価基準」に基づくNPOマネジメントの学びの教材

発行：（一財）非営利組織評価センター
発行日：2021年10月1日

本資料に関するお問合せ
office@jcne.or.jp